

みのおのおいたち その14

萱野地区(二)

萱野地区からも箕面地区と同様に、縄文時代の遺跡と遺物が数多く見つかっています。

例えば、萱野地区北側の府道箕面池田線沿いには、白鳥遺跡と如意谷遺跡があります。最近行った調査では、縄文時代後期と晩期の土器や石の矢尻などが出土しました。今から三千年前後も前の人々が、

生活や狩りに使っていたのでしよう。また、白鳥遺跡からは土偶(土で作った人形)も一点だけですが見つかっています。これは当時の人々の心

事がときに、縄文時代前期の土器が出土しました。公園のすぐ前には千里川が流れており、今から六千年も昔の縄文人が生活するのに適していた

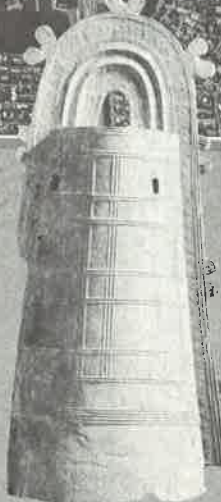
たこの時代の人々にとつては、大変恵まれた自然環境だった

々が連なり、南部には千里川が流れています。この間に広がる台地のあらこちには小川が流れているなど、魚や貝を採ったり、狩猟で生活していたこの時代の人々にとつては、大変恵まれた自然環境だった

箕面のあちこちで米づくりが始まり、人々が生産に励んでいたという事は、人々が一カ所に定住していたことを意味し、そこから、生活の拠点である「ムラ」が各所につくられ、お互いの連帯も生まれていったのでしよう。こうしたムラの連帯のシンボル、宝器として作られたのが、如意谷銅鐸であったのかもれません。

情を探ることができるとは、貴重な遺物です。

一方、萱野地区の南にある稲地区でも、西脇公園新設工



銅鐸

ことではよう。こうした「野生の時代」に幕があり、新しい時代の到来を物語ってくれる遺物が、如意谷遺跡から発掘された銅鐸です。この銅鐸などで象徴される弥生時代は、米づくりの始まった時代でもあります。萱野地区でも長く続いた狩猟採集の時代が終わり、人の手

それにしても、この萱野地区に稲作をもたらした、銅鐸に象徴される地域共同体をつくり出した人々、特にその中心的役割を占めた勢力は誰だったのでしよう。今回は、こうした事柄について紹介します。



矢尻

縄文式土器片